

令和4年度 県立高等特別支援学校 学校評価全体アンケート結果

重点目標	実践目標	関連する取組(参考)	教員結果			生徒結果			保護者結果					
			アンケート(教師)	教員集計	カテゴリ別	アンケート(生徒)	生徒集計	カテゴリ別	アンケート(保護者)	保護者集計	カテゴリ別			
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	<p>①学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。</p> <p>②夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体的計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。</p> <p>③関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・委員会活動 ・授業(各教科) ・部活動 ・宿泊行事、遠足に向けての取組 ・体育大会に向けての取組 ・文化祭に向けての取組 ・珠算・電卓実務検定 ・校内実習 ・特別実習 ・企業でのあいさつ実習 ・現場実習 ・進路相談会開催 ・進路セミナー開催 	あいさつの力を身につけさせることができる	3.31	2.86	日頃からあいさつはできていますか	3.16	2.98	日常的にあいさつはできていますか	3.00	2.82			
			自分の思いや困ったことを伝える力をつけさせることができる	2.61		自分の思いや困ったことを伝えることはできていますか	2.61		自分の思いや困ったことを伝えることはできていますか	2.52				
			他人を思いやる心が育っている	2.78		他人を思いやる心を身につけることができますか	2.92		他人を思いやる心を身につけることができますか	2.80				
						人間関係形成能力の育成を図ることができる	2.72	2.73	友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.23	2.87	友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	2.97	2.65
						自己管理能力の育成を図ることができる	2.56		金銭を自分で管理して使うことはできますか	3.09		金銭を自分で管理して使うことはできますか	2.38	
						何事にも意欲的に取り組む態度の育成を図ることができる	3.06		自分のスケジュール(予定)を管理できていますか	2.81		自分のスケジュールを管理できていますか	2.66	
						マナーやルールを遵守する態度が身についている	3.00	2.87	マナーやルールを守ることはできていますか	3.18	2.87	マナーやルールを守ることはできていますか	2.97	2.65
						自分で判断して主体的に取り組む力の育成を図ることができる	2.50		授業や行事に意欲的に取り組むことができますか	3.16		授業や行事に意欲的に取り組むことができますか	2.74	
						何事にも目標を持って取り組む態度の育成を図ることができる	2.75		言われてからではなく、自分から行動することができますか	2.44		言われてからではなく、自分から行動することができますか	2.48	
						キャリアプランニング能力の育成を図ることができる	2.50	3.42	何事にも目標を持って取り組むことができますか	2.98	3.42	何事にも目標を持って取り組むことができますか	2.51	3.11
			関係機関や企業等との連携を十分に図ることができる	3.31	学校や家庭で自分の役割を果たすことができますか	2.92	学校や家庭で自分の役割を果たすことができますか		2.80					
			職業実習、現場実習、校内実習の充実した取組ができている	3.53	将来に向けて自分の生き方を考えたことはありますか	2.65	将来に向けて自分の生き方を考えたことはありますか		2.29					
			進路について、適切な指導、情報提供、相談等ができる	3.42	2.86	進路についての情報や相談は役に立ちましたか	2.56	2.86	進路についての情報や相談は役に立ちましたか	2.99	3.11			
(2)専門職としての教職員の資質向上	<p>④個々の実態把握に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。</p> <p>⑤教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援研修会「アクティブラーニングと働くこと」 ・WISC研修会 ・非違行為研修 ・カウンセリングマインド研修 「愛着障害について」参加報告 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 	個々の生徒の実態に基づき、適切な支援、合理的配慮の提供ができる	2.86		2.86	授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか		3.00	3.00		授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか	3.11	3.11
			充実した校内研修を行うことができる	2.53			2.53		専門性の向上を図ることができる			2.53		
				2.53										
(3)危機管理体制の構築	<p>⑥火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。</p> <p>⑦事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する、教師の危機管理意識の向上を図り、安心安全な学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合同火災避難訓練 ・寄宿舎避難訓練 ・携帯電話マナー指導 ・SNS等による人権侵害についての生徒指導 ・メンタルヘルス研修会 ・勤務時間適正化の取組 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿舎) ・学校保健計画・学校安全計画 ・防災安全計画・心の教育相談 ・学校いじめ防止基本方針の改訂 ・組織的生徒指導体制 ・授業での安全の徹底 ・三田駅での下校指導 	生徒は自分の判断で安全に配慮して行動ができるようになって	2.50	2.54	災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	3.05	3.14	災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	2.34	2.51			
			生徒は様々な危険に関する知識や理解を深めることができる	2.58		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	3.23		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	2.41				
						熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	3.13		熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	2.79				
						あらゆる危機に対して、教職員の危機管理意識の向上を図ることができる	2.58	2.56	危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている	2.64	2.56	2.64	2.56	2.64
					学校として、あらゆる危機に対する備えができている	2.47								
					危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている	2.64								
			(4)開かれた学校づくりの推進	<p>⑧学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。</p> <p>⑨学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式⇒新入生への説明会 ・体育大会・文化祭 ・卒業式 ・上野ヶ原特別支援学校との対面式 ・学校見学(全11回) ・丹後地区学校説明会 ・三田市巡回指導 ・有馬高等学校農業祭参加 ・青空市場参加 ・部活動対外的活躍 ・介護等体験 ・学校評議員会 ・進路通信 ・支援部通信 ・学校通信 ・寄宿舎たより 	学校情報を効果的に発信できている	3.22	3.07	学校情報を受け取ることはできていますか	2.86	2.86	2.86	2.86	
家庭との連携は十分にとれている	3.25													
行事や様々な取組等において地域との連携を図ることができる	2.89	お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか				3.18	3.18							

(2)専門職としての教職員の資質向上	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	2.9	B	3.0	B	3.1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍は続いているが、生徒の感染状況確認や消毒や換気徹底により、ほぼ従来通りの学校行事を展開することができた。教務部や支援部を中心に個別の指導計画新書式移行に伴う内容の見直しや生徒情報の共有を積極的に行った。 	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者共に「授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか」の評価が教員よりも高かった。教員のより良い指導を目指す姿勢がこの評価の差となったのではないかと考える。 ・学校評価項目の「支援・合理的配慮」について、教師の方々が、生徒・保護者よりも高い目標を設定されている傾向が読み取れ、非常に好ましいです。 ・評議委員会出席の折りに、授業や実習風景を見学させて頂いております中では、的確にご指導されているという印象です。 ・生徒、保護者ともに授業や行事における支援に満足しているという結果については高く評価できます。職業実習の授業見学においても、毎年授業の改善に取り組んでいる様子を見ることができました。今後もできるだけ生徒の特性に寄り添った支援を期待したいです。 ・熱心であるがゆえに、生徒の固有の課題よりも、学習目標に注目してしまうことがあると思います。 <p>一人ひとりの現状から支援方法を検討するボトムアップアプローチと目標から現在の課題を導くトップダウンアプローチを区別し、状況に応じて使い分ける必要があると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方々には生徒一人の特性を理解して指導していただいていると思います。 ・適切に指導されておられます。 	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画様式変更に伴い、自立活動の重点課題を明確にし、一人ひとりの実態と課題に応じた目標設定や手立て、評価ができるようにする。 <p>【教師の専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有した生徒情報に基づき各教科の3年間を見通したシラバスの作成を通して、卒業までにつけたい力を段階的に設定する。また、引き続きiPad等ICT機器の授業での活用方法を明記する。 ・特別支援教育の視点から段階的な授業計画を立案、生徒一人ひとりの目標を明確にして卒業後の生活に活かせることを増やす。 ・生徒理解や授業改善を含む校内研修を充実させる。
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.5	B					<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領改訂に伴う3観点に基づく授業や評価改善のための研修会を実施した。本年度も生徒一人一台のiPadの活用に全教員が積極的に各教科で取り組み、授業や行事に対して生徒の前向きな姿勢を引き出そうとする工夫が見られた。 	<p>【教師の専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より0.1ポイントであるが低下している。ICTの活用も含めて、学ぶ必要のある項目は多岐にわたり、研修があったとしてもそれを個々の授業等に取り入れて活用するための準備時間を確保することはとても難しいのではないかと考える。アクティブラーニング等を含め、今後、少しずつ上昇していく項目であると考えます。 ・学校評価項目の「校内研修」、「専門性の向上」が共に低く、教育機関における上流工程と言える教師という人財への投資が後手に回っている事は、問題だと考えます。残業が多い職場とは存じますが、良質なオンライン研修が(コロナ以降)増えているので、例えばトップダウンで時間指定し、進められたら良いと考えます。 ・学校の授業指導という意味では先生はプロだと思います。就業となると企業、職種にもよりますが、若干視点が違う気もしますので、先生方の企業見学や体験等も必要ではないかと思えます。 	
(3)危機管理体制の構築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.5	B	3.1	B	2.5	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の危機管理能力の育成では危機を回避する方法を具体的に学ぶことで意識の向上は図れた。しかし、依然として緊急時の判断力やSNSでのルールやマナー面の理解等での保護者の不安は大きく、生徒と比較して、保護者の評価と依然として大きな差がある点に課題がある。 	<p>【生徒の危機管理意識】【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑥には、間15/16が含まれると思われるが、この両項目は生徒と保護者の認識の差が最も大きい。特にインターネット上のマナーやルールの理解において、生徒はできていると評価しているが、マナーを守り「危険やリスクを回避して使っているか」について保護者・教員は疑問を感じているのではないかと考える。この点については、繰り返しの指導が今後も必要と考える。 ・⑦に関しては、今の状況においてコロナに誰一人罹らないという状況は難しいものと思われる。熱中症などと並んでコロナについても理解を深める必要があるのではないかと考える。 ・学校評価項目の「リスク対応」について、生徒の危機意識が形成されていない事自体がリスクと考えます。就職後、例えばスマホの直ぐ向こう側に存在するリスクを認識せず、加害者になったり、被害者になったりするケースもあり、一つづつ具体的に地道に教えていく事が必要と思われます。 ・平日頃の訓練だと思います。出来るだけ実践的に行う事、連絡体制や情報共有など基本的な事を繰り返し行う事だと思います。これは、企業も同じだと思います。 ・生徒は学校内での災害を想定し、「避難できる」と回答しているのではないかと思います。保護者が実際に心配しているのはどのような点なのか、SNSの問題等も含めて具体的に記述してもらい、問題点をもう少し明確に把握する必要があると思います。 ・職員、保護者の自己評価と、生徒の自己評価の差が大きく開いているのは、危機に対する深刻度に対する認識の差によるものではないかと思えます。模擬訓練では、回避方法の修得はある程度できるので、生徒本人の評価は高くなるとは思いますが、回避できなかった場合の深刻さの理解が乏しいのではないかと考えます。 ・不安がらせる必要はありませんが、必要に応じてビデオ映像等でリアルな状況を知ることができる機会があれば良いと思います。 ・先日の雪でもそうでしたが、緊急時の判断は不安があります。またSNSが身近なものになっており、保護者より生徒の方が詳しくなっていると思います。ルールやマナー面の理解等での不安があり、保護者にも学ぶ機会が継続してほしい。 ・生徒さん自身で判断できると思います。 	<p>【生徒の危機管理意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る大切さを機会あるごとに伝え、具体的な事例を提示し、いざという時に一人で判断して行動できる意識を高め、繰り返し訓練を実施する。 ・具体的な事例に基づく男女関係に関する学習を計画的に生徒に実施するとともに、保護者にも学ぶ機会を作る。 <p>【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する上野ヶ原特別支援学校やわくわく村との合同避難訓練を実施するなど、地域での危機管理体制整備を行う。
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	2.6	B					<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のための指導を継続して実施、コロナ対応には寄宿舎を含めて全教職員で徹底した衛生管理をするなど危機管理意識の向上を図り、コロナ罹患者が出て迅速かつ適切な対応を行い、教育活動を止めることなく遂行することができた。 		

(4)開かれた学校づくりの推進	⑧ 学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。	3.2	A	2.9	B	<p>・ホームページには学校行事の変更や連絡をリアルタイムで掲載、ブログにはほぼ毎日学校情報を更新するなどして、情報発信に力を入れた。また、定期的に総務部、進路指導部、保健安全部、支援部からの通信や便りを時期に応じて効果的に発行してきた。</p> <p>・作成した広報用ポスターを学校見学や販売活動時に掲示した。</p>	<p>【情報発信】</p> <p>・⑧については、教員と比較して保護者の評価が低い。ただし、ホームページやブログなどへのアクセスについては保護者間で意識の差があることも考えられる。また、コロナ禍ではあるが、保護者だけでなく、生徒の就職先の方や近隣の方にも学校の活動を知ってもらえる機会等を設けることができればさらに良いのでは、と考える。</p> <p>・良好だと考えられます。更なる向上を目指すのであれば、競争相手(西神戸高等特別支援学校など)を想定し、定期的に自他を評価し、改善を進めても良いかもしれません。</p> <p>・ホームページやブログは興味のある人、又は関係者しかアクセスしないのではないのでしょうか。何か、普通に目に留まるような発信の方法も必要。年代により情報収集の媒体も違っていると思います。</p> <p>・卒業生の保護者や就職先の企業担当者から高く評価されている点を、今後さらにアピールしてほしいと思います。</p> <p>・学校情報の発信はとても頑張られていると思います。保護者の評価が職員の評価より若干低いのは、保護者が必要とする、または求めている情報と学校が発信している情報に少しギャップがある可能性があります。保護者にどんな情報を必要としているか聞いてみる機会があれば良いと思います。</p>	<p>【情報発信】</p> <p>・ホームページは学校行事等の情報をリアルタイムで、ブログでは学校情報を日々更新し、また学校紹介動画やシラバスを掲載し、広報活動する。</p> <p>・学校評議員だけでなく、地域の企業の方をお呼びしての授業見学や授業検討会を実施し、本校と生徒たちの学習活動を知っていただく機会を作る。</p> <p>・学校案内の内容を見直し充実させ、デザインを一新する。</p> <p>【保護者・地域との連携】</p> <p>・学校間交流だけでなく、地域のイベントや交流活動に積極的に参加する。</p> <p>・保護者との直接対話する機会を学校行事だけでなく、普段の連絡帳や電話でのやり取りを通して、本校の取組みを共有する。</p>
	⑨ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	3.1	A	3.2	A	<p>・家庭とのやり取りは基本的に担任が丁寧に生徒指導部・進路指導部・支援部・寄宿舎と密に連絡を取りながら、良好な関係づくりができています。また地域の企業また福祉や医療との連携においても組織的に対応する体制が確立し、必要に応じて問題解決にあたることができました。</p>	<p>【保護者・地域との連携】</p> <p>・⑨については、学校・保護者ともに3点を超えており、十分な連携がとれていると考えられる。生徒を中心に信頼関係が築かれているものと考えられる。</p> <p>・良好だと考えられます。</p> <p>・WEBの活用。</p> <p>・ホームページには学校行事の変更や連絡をリアルタイムで掲載、ブログにはほぼ毎日学校情報を更新は分かりやすかったです。</p> <p>・学校に来ていただき、理解されると思います。</p>	